

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立玉江小学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」 学習支援ソフトの活用

本校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、学習支援ソフトの全学級での活用に取り組んでいる。

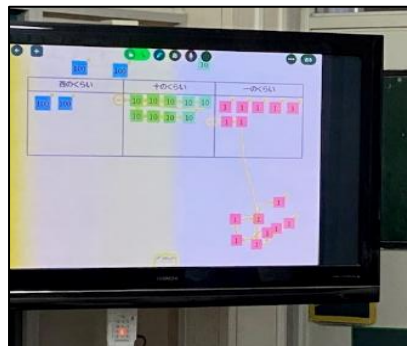
高学年ではほぼ毎時間、低・中学年でも国語、算数、社会、理科などで使用している。

<主に活用している機能>

- 写真撮影・動画撮影
- テキストカード
- アンケート機能
- 共有ノート
- シンキングツール
- ファイルカード
- プレゼン機能



【シンキングツールの活用】



【情報の共有】



【アンケート機能の活用】

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立玉江小学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】「情報活用能力の育成」学習支援ソフトの活用系統表の作成

【作成した系統表】

児童に情報活用能力を育成するためには、まず職員の情報活用能力を高めることが必要と考え、校内研修において、学習支援ソフトの各学年における活用能力系統表を作成し、全職員で共通理解・共通実践を行った。

さらに、実践内容の報告会を行い、情報共有を行った。

そうすることで、職員のタブレット使用率が高まり、系統表に沿った児童の情報活用能力の高まりがみられた。

○各学年における学習支援ソフト活用能力系統表

学 年	学習支援ソフト活用の目安
1 年生	○ノート作成 ○写真撮影・動画撮影 ○テキストカード（手書きで） ○カードの提出
2 年生	○写真カードに書き込み ○アンケートの回答 ○テストの解答 ○カード送信（教師へ）
3 年生	○共有ノート使用・編集 ○ネット検索 ○カードを用いた発表
4 年生	○児童間送信 ○プレゼン作成と発表 ○アンケートの作成 ○シンキングツールで意見分類
5 年生	○動画の長さ編集 ○カードに音声入力 ○PDF で出力（入力） ○ファイルカードの作成 ○カード in カード
6 年生	○話し合いに学習支援ソフトを用いる ○視認性の高いプレゼン作成とタブレットの特徴を生かした発表

※参考「ICT 活用コアスキル」北九州市教育委員会、草牟田小の教育課程

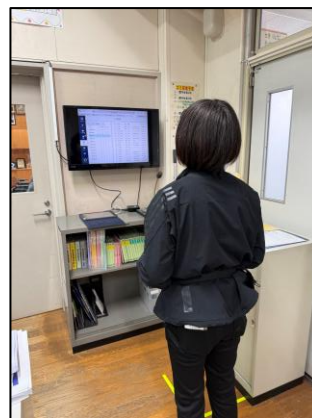
リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立玉江小学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】「校務DX」クラウド型教育プラットフォームの活用

本校ではこれまで欠席連絡をする際に、有料のメールシステムを活用していた。そこで、今年度、クラウド型教育プラットフォームでの連絡方法に変更し、保護者一人一人に児童のアカウントを関連付けた保護者アカウントを配布した。欠席の情報を、担任が職員室にあるモニターで確認したり学級にあるタブレットで確認したりすることができるようになり、教員の負担軽減につながった。

また、これまで毎週紙媒体で保護者に配布していた学級通信を、クラウド型教育プラットフォームで配信することにした。そうすることで、職員の印刷する時間や配布する時間の短縮につながり、業務改善につながった。



【モニターで確認】

